３Ｋ新聞

～公共交通で買物に行こう～

第13号 28年6月10日
発行
島根大学 法文学部
飯野研究室
TEL&Fax
0852-32-6140
ご意見・ご感想
iino@soc.shimane-u.ac.jp

ご存知ですか？ 免許返納のこと

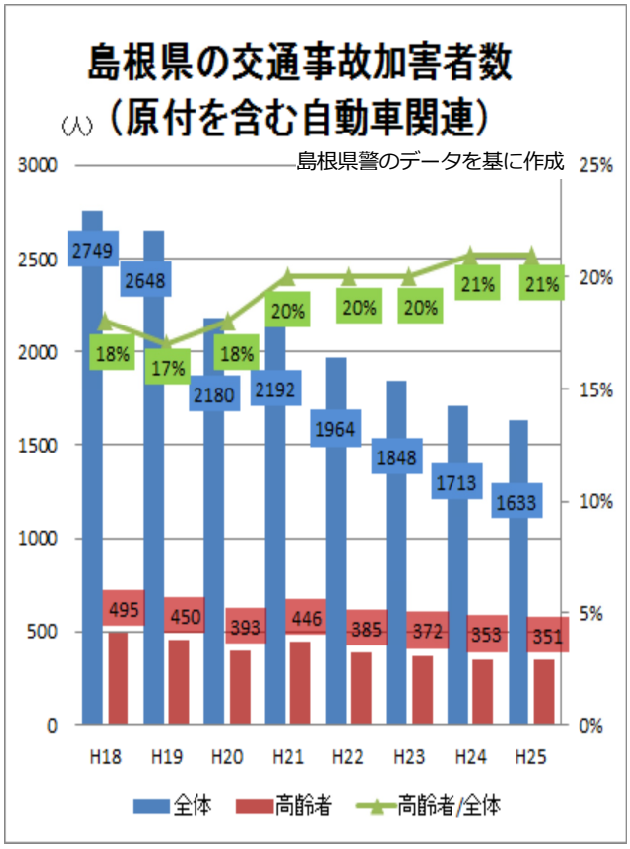
高齢者の自動車事故が多発している昨今、高齢者に運転免許を返納してもらおうという動きが広がっている。しかし、車を手放した高齢者のその後はどうなっているのだろうか。免許返納制度の現状と課題を探ってみたい。

県内交通事故件数の推移

青のグラフをみると、全体として交通事故件数は減少している。しかし、高齢者が加害者となる事故件数は微減にとどまっている（赤のグラフ）。そのため全体の事故件数に占める割合は、高まる傾向にあり（緑のグラフ）、平成25年度は、21％にのぼっている。高齢者が事故を起こす原因は、体調不良や認知症など様々だが、止まろうとした地点と実際に止まった位置がずれるなど、意識と行動の不一致によって起こることが多いと言われている。

高齢化が進む島根県において高齢者が加害者となる交通事故をいかに減らすかが、県全体の交通事故件数を減らすための鍵を握っている。

そこで昨今注目されているのが運転免許の返納だ。（山本晃大）



現状の免許更新制度

70～74歳の人は免許更新時に、高齢者講習等を受講することで免許の更新ができる。

75歳以上の場合は、高齢者予備検査と高齢者講習等を受けないと免許の更新はできない。高齢者予備検査では、記憶力と判断力の状態を検査している。ちなみに検査問題の詳細は警視庁のＨＰ「講習予備検査について」で公表されている。現在は原則として、検査結果に関わらず運転免許の更新ができる。しかし、記憶力・判断力が低くなっていると診断され、信号無視などの違反があった場合は、専門医の診断を受ける必要がある。そこで認知症と診断されると運転免許の取り消し、又は停止となる。

昨年の国会で、認知能力の低下という結果が出た人全員に専門医の診断を義務づけるという法案が可決され、同年6月に公付された。

今後、認知症と診断され免許停止となる高齢者が増加すると予想される。そのため、バスや鉄道など、移動手段の一層の充実が求められている。（草野稀仁）

高齢者の運転免許返納への助成

松江市では、高齢者の交通事故防止を目的に、70歳以上の松江市民を対象に運転免許の自主返納を呼びかけている。

助成内容は、1人2万円の範囲内で1回限り次のいずれかを選択できる。（1）島根県共通バスカード、松江市コミュニティバス回数券、浴場利用回数券、（2）電動アシスト付き自転車購入費。

また、市内の全タクシー会社では、免許返納の際に警察署で発行される運転経歴証明書を提示すると、タクシー運賃が1割引される。交通事故を減らす目的でタクシー運賃を割り引くのは、全国でも珍しい。

このように松江市では安全な交通社会の実現のための取り組みが官民で進みつつある。（水島舞美）

バスカード2万円で何回通院出来るの？

ところで、松江市の免許返納時の助成金2万円は、どれほどの交通費になるのだろうか。バスカード（プレミアがつくので実質2万2千円分となる）を例に週1回日赤病院に通院するとして試算した。

北循環線エリアでは県民会館前まで、片道大人210円で52往復できる。これは、約1年分の通院費に当たる。

しかし、同じ市内の美保関ターミナルからでは片道大人690円で往復15回となる。これでは、約3ヶ月の通院費にしかならない。

松江市では、この助成金とは別に、満70歳以上の方に、バスカードで乗車運賃を支払うと本来の運賃から100円を割引く制度がある。この制度を利用すると、北循環線の場合100往復（1年11ヶ月の通院費）美保関線の場合18往復（4ヶ月の通院費）となる。現行の制度では、循環線などの市街地沿線に住んでいる人は免許を返納しやすい環境にあると思われる。しかし、美保関をはじめとする高齢化率が高い郊外部ほど、運転免許返納後の環境が整っていないため、返納のハードルが高くなってしまうのである。（水島舞美）

運転免許返納者の暮らしは？

免許返納された方が、どういう思いで返納したのか、返納後どういう生活を送っているのかを知るために、運転免許を2年前に返納した法吉地区在住の古瀬力雄さん（89）に2月23日インタビューした。

お話を伺った古瀬さん

Q1　免許を返納した直接の理由は何でしたか？

2年前に免許を返納しましたが、実は、60歳で左目が眼底出血になってしまい、目が見えにくくなりました。その後約20年間運転をしてきたが、家の近くの道で車とすれ違う時ハッと危険を感じる事が何度かあったからです。

Q2　免許を返納した後で生活に変化はありましたか？

行動範囲が運転をしていた時と比較すると半分以下になりました。それと、雨の日の移動が億劫になりました。

Q3　今の主な移動手段は何ですか？

シニアカーです。電動自転車も考えましたが、どうしてもふらついしまうので、断念しました。シニアカーでは、病院へ自力で移動できるため重宝しています。

シニアカー
写真はスズキ自動車ＨＰ

最高速度は時速6㎞で歩道を走行。充電式で約17㎞～27㎞走行可能

Q4　助成金は受け取りましたか、また使い道は？

バスカードを2万円分受け取りました。友人と一杯やる時、テルサや県民会館の講演会に行く時くらいしかバスを利用しないので、それほど使ってないです。本当は使わないといけないんですけどね。

近くのバス停の便数が少なかったり、帰りのバスがなかったりするので不便に感じています。

Q5　免許返納制度についてどう思われてますか？

現行制度では、免許を返納した瞬間から運転ができなくなるので、警察署との往復に誰かの手を煩わせないといけません。だから、返納をした次の日から運転できなくなるというルールに変えて欲しいです。もしくは、免許返納の際は公共交通機関等を使ってきてくださいなど（ホームページなどに）一言添えておいて欲しいです。

Q6　運転免許を返納してよかったと思うことは何ですか？

返納した当初は不安でしたが、テレビや新聞で高齢者の事故のニュースを見ると返納してよかったなと安心します。

片方の目が見えにくくなっても自動車を運転しないと生きていけないと感じさせる社会に問題を感じた。現在、運転をやめたいと思った時に運転をせずにすむような環境が地方部では整えられていない。

一因は、車を前提としたライフスタイルと都市構造にある。人口減少を向かえ、過度の車依存からいかに脱却するか大きな課題である。自力で移動できることが自立できているという証だと考える高齢者も多く、移動手段の確保は最も重要な福祉政策のひとつであるとインタビューを通して実感した。（草野稀仁）

免許返納への意識は家族構成によっても変わる？

豊田工業高等専門学校の野田宏治氏らの『高齢運転者を対象とした運転免許制度に関する研究』によると、家庭環境も免許返納に影響するようだ。野田氏らによると、返納に前向きな「近い将来返納したい」、「生活環境の向上で返納したい」と回答した割合が最も高かったのは1人暮らし世帯及び、夫婦2人暮らしの世帯だった。他方、二世代、三世代で住む高齢者は返納に後ろ向きな「返納する気なし」の割合高くなっている。また、家族の人数が1人、2人のほうが家族の人数が3人以上の高齢者より返納意識が高い。

理由としては、家族の人数が多いということは、家族に送迎を頼ることができ、運転免許をあえて返納しなくても問題はないからだと考えられる。

これはあくまで豊田市の事例だが松江市でも詳細な調査を実施し、必要な対策を検討する時期に入っているのではないだろうか。

（橋本守人）

乗り物語

今回は『鉄道員（ぽっぽや）』「作者・浅田次郎、集英社、1997年」の紹介です。

平成28年は北海道から九州までが新幹線でつながった年として記録に残ることでしょう。鉄道事業は高速化の度合いをますます強め、積極的なICTの導入は業務の効率化を極限まで高めているかのようです。このように一部地域で利便性が高まる一方、人口減少が進むローカル線では廃線、廃駅、無人化の動きが静かに進行しています。

ところで、私たちが鉄道から連想する心象風景はもっと別のところにあるような気がしませんか。車内だけでなく駅やホームなど、鉄道はいつも誰かと出会い、言葉を交わす場でもありました。そして、その当たり前の日常風景を人知れず守り続けているのが鉄道員です。

本作品は、生涯を通じて鉄道を愛した一人の駅長の廃線と定年までの日々を彼の鉄道員人生とだぶらせながら描いた短編です。鉄道という輸送システムに血を通わせている鉄道員の生き様を想像するのも今の時代に必要なことなのかもしれません。

（寺本孝）

公共交通クイズ

Q. 松江市営バス管内にあるバス停の総数は？

ただし、上りと下りにあるバス停は一つとカウントする。

①105
②205
③305
④405
前号の答え
③約700　（寺本孝）

編集後記

今回の3K新聞はいかがでしたか？運転ができなくなる事態は免許保有者にとって必ず訪れる問題です。その時に備えて今からどうするかを考えるきっかけになれば幸いです。

次号の編集長は、寺本孝君です。（第13号編集長　草野稀仁）